

(様式3)

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

都道府県名	福岡県	市町村名		大学名	
派遣日	令和2年10月27日(火曜日) 13:20~16:40 ※派遣当日の日程を詳細に記入してください。 ※派遣当日の次第、研修実施要項・日程表等、日程の詳細が分かる資料を添付してください。				
実施方法	※いずれかに○をつけてください。 <input checked="" type="radio"/> 派遣 / <input type="radio"/> 遠隔				
派遣場所	福岡県立社会教育センター 福岡県粕屋郡篠栗町大字金出3350-2				
アドバイザー氏名	東京学芸大学教職大学院 斎藤 ひろみ教授				
相談者	福岡県教育委員会 義務教育課 研修会対象者 ・市町村立小・中学校に在籍する日本語指導加配教員 ・日本語指導加配教員が在籍する市町村教育委員会の日本語指導担当者 ・日本語指導が必要な児童生徒が在籍する市町村立小・中学校の日本語指導担当教員のうち、参加を希望する者 ・日本語指導が必要な児童生徒が在籍する市町村教育委員会の日本語指導担当者のうち、参加を希望する者				
相談内容	令和2年度 第2回日本語指導担当教員等指導力向上研修 目的：日本語指導が必要な児童生徒が増加している学校の実態を踏まえ、日本語指導担当教員の役割や指導方法等について知識等を習得させるとともに、教育委員会における支援体制の充実を図る。 上記の研修会において、「外国人児童生徒等教育を担う教員の育成・研修プログラム」に基づき、子どもたちの多様な実態に応じた日本語指導・学習支援について講義を依頼した。				
派遣者からの指導助言内容	1 外国人児童生徒等教育を担う教員の資質・能力について ・文部科学省「外国人児童生徒等教育を担う教員の育成・研修モデルプログラム」資質・能力モデルについて 「豆の木モデル」：4つの力と8つの課題領域 ・自己評価票に基づき自身の指導・実践について振り返る 2 子どもたちの多様性と日本語指導・支援の課題 ・子ども達の多様性(=実態として把握すべき点) ・日本語指導・支援の課題 学校・社会生活への適応状況 学習・認知面の発達の状況 アイデンティティ形成、自己実現				

	<p>3 「コースデザイン」としての日本語指導・学習支援の計画を立てる</p> <ul style="list-style-type: none">・コースデザインの必要性・コースデザインの手続き・コースデザインの例 <p>4 子どもたちの多様性に応じた日本語指導・支援</p> <ul style="list-style-type: none">・滞在期間・年齢、生活経験、認知面の発達・教科等の学習経験・社会との関わり、将来像 <p>5 研修での学びを明日からの実践へ</p> <ul style="list-style-type: none">・この研修を通して、「豆の木モデル」のどの側面で学びが大きかったか。・明日からの実践で、具体的には何を取り入れてチャレンジするか。
相談後の方針の変化、今後の取組方針等	<p>以下は研修後に実施したアンケートからの抜粋である。担当教員や指導主事と、立場が異なる参加者による研修であったが、講義に対する満足度は非常に高かった。</p> <ul style="list-style-type: none">・日本語の状況だけでなく、様々な背景や将来像も捉え、実態・ニーズをふまえて計画的に指導することが大切だとわかった。・日本語教育の課題を認知面から説明していただき子どもたちの実態と重ねて考えることができた。また、コースデザインの必要性から、特別の教育課程の作成が求められていることなども分かりやすく教えていただきました。・日本語指導担当教員の資質・能力には、非常に幅広い項目が含まれ、そのことを理解している管理職・職場の必要性や大切さがよく分かった。・教師側の指導における言葉遣いの注意点とその大切さや、在籍学級での集団づくり等を担任や担当教員と連携して行っていくことの大切さがわかった。 <p>今後の本県の取組としては、以下の内容を検討している。</p> <ul style="list-style-type: none">・本年度より本県で実施している日本語指導体制整備事業に指定されている3市町村において、参考資料とし、実践研究に活かす。・来年度実施する研修の内容を検討する際の参考資料とする。

1枚にまとめる必要は、ありませんので、詳細に記載願います。なお、本報告書の内容は、文部科学省ホームページで公開いたします。